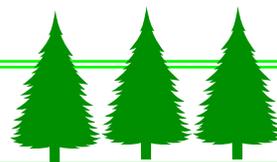




# みつぎ便り



第202号 7月号 令和5年7月1日発行 [http://itbs-ecopo.jp/environsurvey\\_report](http://itbs-ecopo.jp/environsurvey_report)

板橋区役所南部土木サービスセンターの花づくりグループとエコポリスセンターのかんきょう観察員地域自主活動グループに所属しているボランティア団体「見次の会」です

## イソトマ

花の名前は、あまり馴染みが無いかも知れませんが、でも、最近は寄植えや庭植えて見る機会も増えてきましたので、花を見れば「ああこの花か」と思われる方も多いのではないのでしょうか。

見次公園では、正面入り口の左右にある大型の円柱型花壇、ポート小屋裏手に二段ある四角い花壇に植えられています。原産地はオーストラリアやアフリカで、日本に入ってきたのは昭和三十八年頃と言われています。名前の「イソトマ」とはギリ



シア語で等しい破片を意味するようです。その名のとおり花びらが同じように裂けたかのように揃って、可愛らしい姿を見せています。花言葉は「嬉しい知らせ」「神聖な思い出」のほか「強烈な誘惑」「猛毒」といったものがあります。茎や葉をカットすると白い液が出てきます。

これはアルカロイド系の毒素を含みますので、皮ふに付くと、人によっては、肌荒れやかぶれをひきおこし、目に入ると失明の恐れもあると言われています。十分注意して下さい。和名は、きれいに五分割されたような花びらの形からホシアザミ(星薊)と呼ばれています。(利)

## キキョウソウ(桔梗草)

「ほら、キキョウソウ」と、見次の会のメンバーが差し出した十数センチ程の草。見てみると、桔梗の花の形をした一丈ぐらゐの小さな青紫色のかわいらしい花が茎上部の葉腋に数個ついています。葉は互生で丸い形で基部は茎を抱き鋸歯があります。その各節に花をつけていました。



北アメリカ原産の帰化植物で、関東以西に見られるとのこと。キキョウ科キキョウ属。花期は、五月から七月の一年草。背丈は三〇センチから八〇センチ。一丈になるものもあるようです。

今回見つけたキキョウソウは、そんなに日当たりのいいところに生えていなかったためか、背丈がこんなに高くなるなんて、信じられないくらい可憐な感じでした。

公園内の空き地で見つかりました。道端や植え込み、草地、河原などで見られるそうです。私は見たことのない草でしたが、気づかずに過ごしていたのかもしれない。どこか別の場所でキキョウソウと再会するのが楽しみです。(敦)